

2年古典（漢文）の授業・1

【教材】〇〇〇〇『〇〇〇古典B』〇〇〇頁 「漱石枕流」（世説新語）

【授業者】国語科 中井 光

みんな、こんにちは！

古典の授業の第2回は漢文だけ。

中井は、もちろん漢文が専門。ちよいと教え方が変わってるけど、がんばってついてきてくれれば、必ず漢文を読み解く力を授けよう！ 任しとけ！

さあ、漢文の教科書を開いてもらおうかな。最初は「故事・逸話」ってあるよね。まずは手始めにその中から2つほど読んでみよう。今日は5世紀頃、中国は六朝時代の代表的な志人小説『世説新語』から、「漱石枕流」という言葉が生まれた文章を読んでいこう。

テーマは「故事・逸話」なんで、深入りする気はないんだが、中国文学の「小説」ってジャンルは、もともと「小説」の文字通り、「とるにたりないお話」って意味なんだ。不思議な話や怪異について記したのが「志怪小説」、さまざまな人物像を描き出したのが「志人小説」だ。「志」は「しるす」って意味なんだよ。『世説新語』は人物を描いた志人小説、その中から孫子荆という負けずらいで意地っ張りな男のお話を紹介しよう。

●まず予習

さて、まずは予習してくれよ。ワークシートに読みと意味の大事な漢字をリストアップしておいたから、漢和辞典を引いたりして、確認しよう。え？教科書に振り仮名ついてるって？ まあいいじゃないか、大事だよーって、教えてんだよ。それと、返り点と送り仮名、けっこう複雑だよな。書き下し文をつけとくら、それに従って、返り点と送り仮名をつける練習もしよう。

そして、なにより、この文章、何が書いてあるんだろう？って、なんとか自力でわかってと努力してごらん。今は全然でも、努力し続けていけば、だんだんわかるようになってくるぜ。

（自習すべし）

●本文を声を出して読む

さて、予習は済んだかい？ じゃ、授業を始めろぞ。

まずは、全文の音読だ。古文と違って、どう読むのかわからないかもな。朗読ファイルを用意しておいたから、それを再生と一緒に読もう！ スラスラ読めるようになるまで繰り返すんだぞ！

読みに注意する語は、「少」（わかシ）、「欲」（ほつス）、「当」（まさニベシ）、「可」、「所以」（ゆゑん）ってところかな。

（朗読ファイルを再生して一緒に音読すべし）

●本文の解釈

さて、さっそく読んでいこうかな？ 君らがどれぐらい漢文マスターしてるのか、楽しみだぜ。

孫^{そん}子^し荊^{けい}、年^{ねん}少^{せう}時^じ、欲^{よく}隠^{レント}。

(書き下し文) 孫子荊、年少き時、隠れんと欲す。

これぐらいなら訳せるかな？ 「孫子荊が、年若い時、隠棲したいと思った。」って意味だぜ。OK？

〔文法〕

- ・ いいかい？ まず、**主に文の先頭に置かれる名詞や名詞句、それに準じる語は主語**！だよ。つまり、この文では「孫子荊」が主語だ。主語は、述語が表す動作や作用、状態の主体になる語なんだ。だから、「**太郎笑。**」(太郎が笑う。)なら、太郎が「笑う」主体で主語。「**花子美。**」(花子は美しい。)なら、花子が「美しい」状態の主体で、やっぱり主語になるわけだ。主語には4種類ある。

●主語の種類

①**施事主語**： 述語の動作・行為を行う主体を表す主語

(例) **帝怒ル**。(▼帝怒る。 ▼皇帝が怒る。)

②**受事主語**： 述語の動作・行為を受ける客体を表す主語

(例) **主辱**。(▼主辱めらる。 ▼主人が辱められる。)

③**主題主語**： 述語が述べたり描写したり判断したりする対象となる主題を表す主語

(例) **兵少**。(▼兵少ない。 ▼兵が少ない。)

④**存在主語**： 存在文における主語(意味上の主語が存在する範囲を表す)

(例) **宋有人**。(▼宋に人有り。 ▼宋の国に人がいる。)

※存在文は「宋が人をもつ」が元の意味。だから、「宋」が主語になる。ただし、右の文の場合、意味上の主語は「人」で、存在主語はその人が存在する範囲(≡宋)を表しているのに注意しよう。

4つの主語のうち、最後の存在主語は、ちょっとわかりにくい。また、教科書に存在文が出てきたときに、

詳しく説明しよう。

さて、かりにこの文の根幹が「孫子荊欲^ス隱^{レント}。」（▼孫子荊隠れんと欲す。）だったら、「孫子荊」は何主語になる？ 「隱^ル」ってのは、俗世間を避けて隠遁するって意味の動詞だよ。どうだい？ うん、そう、いうまでもなく施事主語だよな。「施事」は「ことを施す」つまり、動作・行為を行うってことだからな。

ところがだよ、もしこの文が「孫子荊、年少^シ。」（▼孫子荊、年少し。）だったら、「孫子荊」は何主語になる？ どうだい？ わかるかな？ 述語「年少^シ」が描写する対象だね、そう、主題主語になる。こんなふうに、主に文の先頭に置かれる名詞が主語なんだが、述語との関係から、何主語になるかは変わるんだよ。

次に、今度は述語だ。もうそんなのわかってるって？ いやいや、最初はちゃんと復習しようぜ。述語は、主語によって示されたことに対して、その動作や状態、性質を述べる語だ。いわば叙述語だな。動作は主に動詞が、状態や性質は主に形容詞が表すんだが、名詞や、句が述語になることもある。

● 述語の種類

① 動詞述語

(例) 帝 怒^ル。
(▼帝 怒^ル。 ▼皇帝が怒る。)

② 形容詞述語

(例) 月 明^ル。
(▼月 明^ル。 ▼月が明るい。)

※「明らかなり」と読んでも、状態を表す語なので形容詞。中国語に形容動詞はない。

③ 名詞述語

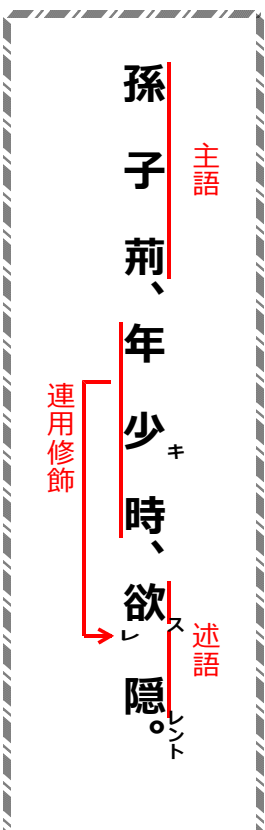
(例) 名 虞^{ナリ}。
(▼名は虞なり。 ▼名前は虞である。)

④ 主述述語

(例) 孫子荊、年少^シ。
(▼孫子荊、年少^シ。 ▼孫子荊は年齢が若い。)

最後の「主述述語」ってのは、述語自体が「主語 + 述語」の構造になっているものを言うんだ。日本語の「象は、鼻が長い」と似た表現だよな。例文に挙げておいたように、「孫子荊、年少^シ」の述語は、「年が若い」という主語と述語の関係になってるんだよ。

- さて、この句の主語「孫子荊」に対する述語は「欲^ス隠^レ」(隠れようとする)だ。じゃあ、「年少^キ時」はどういう位置づけなんだ？ って疑問に思うだろう？ ちょっと図解してみよう。



「時」ってのは、もちろん名詞だよ。「年少^キ」の修飾を受けても「年齢が若い時」という名詞句に他ならない。でも、これが述語「欲^ス隠^レ」の前に置かれることで、あたかも副詞のように働くんだ。副詞じゃないが、副詞的ってことさ。これをちよつと難しくいうと、副詞は常に述語の前に置かれるけれども同じ位置に名詞やその他の語が置かれると、この構造の型で、副詞のように働くことがあるってことなんだ。

主語 狼^ノ 述語 立^ッ。
人^ノ 立^ッ。

▼狼 人の「ノ」にく立っ。

▽狼が人のように立つ。

たとえば、この文も、「狼」が主語で、「立^ッ」が述語だよ。この述語の前、すなわち副詞のおかれる位置に名詞「人」を置くと、「人のように」と、あたかも副詞のように働くんだ。だから、「狼が人のように立つ」という意味になる。これは名詞に限ったことじゃないんだけど、**漢文は構造の型の力で、本来の品詞が違う品詞のように働くこともある**ってこと、頭の片隅にとどめとして。また、出てきたら復習しよう。

- この箇所、もひとつ大事な文法事項がある。助動詞だ。もちろん漢文の助動詞だよ。

助動詞は、もともと動詞であるが、本来の実質的な意味が薄れ、形式上の意味をもち、動詞を目的語にとって、動詞に意味を添える語である。

たとえば、「欲^ス」は、もともと「願う・望む・ほしがる」という実質的な意味をもつ語だよ。だから、たとえば「欲^ス桃^ヲ」(▼桃^ヲを欲^スす。 ▼桃^ヲをほしがる。)の「欲^ス」は、紛れもない動詞だ。ところが、

その実質的な意味が薄れて、単に「～したい・～しようとする」という形式的な意味だけ表すようになってたんだ。この時、必ず後に動詞を目的語にとつて、その動詞に「～したい」とか「～しようとする」という意味を添える。「欲^ス隠^{スレント}」なら、「隠れようとする」とか「隠れたいと思う」という意味になる。

動詞は名詞を目的語にとる。ところが、助動詞は動詞を目的語にとる。ここが決定的な違いなんだ。助動詞にはほかにいろいろなあるけど、また出てきたら、詳しく説明しようね。

●助動詞「欲」

欲^ス A^{セント}。

動詞

▼Aせんと欲^{ほう}す。

▽Aしようとする・Aしたいと思う。

・さて、ずいぶん話が長くなっちゃったね。悪い、悪い。眠くなっちゃったんじゃない？ 最初はどうしてもしかたないんだ。いろいろ確認したいしね。ごめんな。

〔読解・鑑賞〕

・漢文では「若い」ってのは、「少^{わかシ}」で表現するんだ。「若」は使わないんだね。ほら、「年少」ってのも、別に年が少ないんじゃないかって、「年が若い」って意味なんだぜ。ただ、じゃあ一体何歳ぐらいをいうのかというと、いわゆる少年ではなくて、もうちょっと上、何歳と決まってるわけじゃないけど、だいたい三十歳で一人前の男子とみなされるから、それ以前ぐらいかな。え？それじゃ、もうおっさんだつて？ ははは…

・孫子荊、名は楚。子荊は字^{あだな}（中国の成人男性が実名以外につけた名）だよ。孫子荊って男は、ちょっと嫌なやつだったみたいだね。どうも若い頃から傲慢^{ごうまん}なところがあつて、周囲の人とよく対立したらしい。それが、何を思ったか、隠棲^{いんせい}生活をしようと考えたんだな。え？隠棲って何だつて？ 俗世間を離れて隠者の生活するってことだよ。え？隠者って何だつて？ それはだな…おい、自分で調べろよ！ とにかく俗世のいろんな価値から離れて、ひっそり生活しようと考えたわけだ。

語^{リテ}二 王 武 子、^{まさニ}当^{ベキニ}枕^シ 石^ニ 漱^{ガントス} 流^{レニ}、

（書き下し文）王武子に語りて、当に石に枕し流れに漱がんとすべきに、

〔文法〕

・この箇所が大問題なんだな… んくと、教科書のこの読みに従って解釈すると、「王武子に語りて、『

石に枕して流れに口すすごとう」といふべきなのに、「と訳すことになるというか、そう解釈したからこう訓読してあるわけだ。実際、この有名な逸話は、昔から日本ではそう読まれてきたし。

ところがね、これ何年前のことだったけかな、うちの学校の2年生になったばかりの女の子が、中井に質問してきたんだ。

——先生、私、この文を「『枕石漱流』というべきところを」とか、「いふべきなのに」と解釈するのが、どうしても納得いかないんです。それなら、「いう」に相当することばが必要です。構造的に説明できませんよね。この文の成分はどう説明されるんですか？ 私、この文、もしかしたら二重目的語の文じゃないのかな？って思うんです。

この生徒は、それ以前にも、こつちがギリとするような鋭い質問をしてきたことがあったんだけど、この問いにはさすがに冷や汗が出たね。説明しようとして、できないんだよ、これが。

この子がいうように、「いふべきなのに」と解釈するためには、たとえば「^二当^一謂^二枕^レ石^ニ漱^レ流^ニ」とでもしなければ、その意味は表し得ないもんな。この子は1年生の時に、徹底的に漢文の文法をたたき込んだ生徒だったんだけど、中井が疑問にも感じなかったこの訓読に、怪しいものを感じ、しかもすでにこの文が二重目的語の文であると感じ抜いていたんだ。すごいわ…

つまり、この文は、正しく読み直すと、次のようになる。

述語

間接目的語（誰に）

直接目的語（何を）

語^三王^一武^二子^一当^二枕^レ石^ニ漱^レ流^ニ

（書き下し文）王武子に「当に石に枕し流れに漱がんとすと語げんとし、

（口語訳）王武子に「（私はこれから）石に枕し流れに口すすごとうと思う」と告げようとして、

先生、難しいですよーって、顔してるなあ… そりやそうさ、こつちだってその生徒に教えられるまで気づかずにいたわけだし。でも、これ、君らと同一年の生徒が質問してきたんだぜ。漢文を構造的に理解していると、ここまで突っ込んだすごい質問ができるんだ。

まず、「当」は、1年生の時、再読文字として「当然くするべきだ」という意味だと教わってきたと思う。それ自体は間違っていない。ただ、それは助動詞としての「当」の読み方と意味だ。ここの「当」は、「将」や「応」と同じく「（まもなく）くしようとする…するつもりだ」という将来を表す時間副詞と

して働いていて、中国でも概ねそう解釈されてるんだ。**（中国の書物を何冊もあたって確認したぜ。）**だから、右の「当」は再読文字「将」（将に〜（せ）んとす」と同じ読み方をしてみたわけさ。難しいかな？

つまり、「**当**」**枕石** **漱流**」の部分は、王武子に告げた内容そのものにあたるわけだよ。

あれれ、まだ難しいよおっつて、顔してるなあ… ん？なんだって？二重目的語の文っていうのがわからないって？ あらう、1年の時に習ったろ？ しかたないなあ…じゃあ、ここで復習しようか。

そもそも動詞には、「何をどうする」という意味を強くもつものと、「何（誰）にどうする」という意味の方が強い動詞の二種類があるんだ。「何を」も「何に」も、目的語として動詞の後にとることになるんだが、「何（誰）にどうする」という意味の強い一部の動詞は、「何を」と「何（誰）に」の二つの目的語を同時にとる時に、その性質から、先に「何（誰）に」という意味の目的語をとる性質があるんだよ。なに？よくわからんから、例を示せて？ よし、わかった。

与 **若** **予**

▼ **若**に**予**を**与**ふ。

▽おまえたちにトチの実を**与**える。

この「**与**」（**与**える）は、「**予**」（**与**える）・「**授**」（授ける）・「**賜**」（上の者が下の者に**与**える）・「**遺**」（贈る）などと同じく、**授与行為を表す動詞**だよ。これらの語は、「誰に〜する」の意味を強くもつために、その人物を表す目的語（間接目的語）を先にとる性質があるんだ。そして、「何を」に当たる目的語（直接目的語）は必ず、その後にとる。つまり、次の通り。

誰に（何に）何を

述語

間接目的語

直接目的語

与

若

予

（人物など）

（事物など）

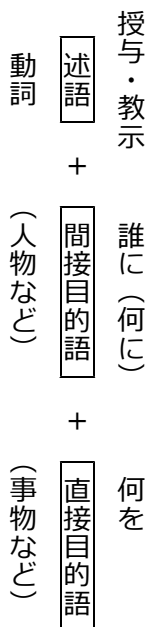
これをひっくり返して「**与**」**若**」という表現は、動詞の性質上、絶対にできないんだよ。この語順をとる動詞には、授与を表す動詞の他にもいろいろあるんだが、**教示行為を表す動詞**もこの構造をとる。たとえば、「**教**」（教える）・「**示**」（示す）・「**告**」（告げる）・「**語**」（告げる）なんか、それだ。「語」は「かたル」とも読むけど、告げるの意味でよく用いられるし、この本文でもそうだね。

さっき紹介した「すごい」生徒は、「語」が教示を表す動詞だということに気づいていて、だから二重目的語の文ではないかと疑ったんだね。君らの場合、すでに返り点と送り仮名がつけられて、すでに日本語として読まれている漢文を、さらに古典中国語として構造を疑ってみるなんてことができるかい？ ま

あ、気づかなかった中井も偉そうなことは言えんが、構造理解がどんなに漢文を読み解く力を高めるか、目の当たりに見たような気がしたもんだよ。さあ、君らも後に続け！

二重目的語の文について、まとめるぞ！

●二重目的語の文



・ ワークシートに、二重目的語の文の例をいくつか載せといた。この授業が終わったら、復習してみよう。書き下し文と口語訳をよく見て、漢文に返り点と送り仮名をつけてごらん。そして、どの語が述語で、どの語が間接目的語、どの語が直接目的語か、線を引いて書き込んでみよう！

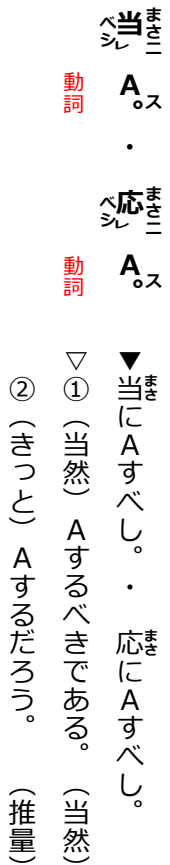
(後で復習すべし)

・ ところで、この本文では「当」は、「^{まさ}にく(す)べし」と読み「(当然)くするべきだ・(きつと)く(する)だろう」と解釈するべきではないと説明したよね。でも、それはここでは妥当ではないというだけで、助動詞「当」自体の用法は、君らは理解しておかなきゃいかん項目だぞ。だから、蛇足になるけれど、ここでちよつと復習しておこう。

助動詞「当」は、動詞を目的語にとつて、その動詞に「くするべきだ」(当然)とか「くするだろう」(推量)という意味を添える働きをする。もともとは「相当する」という意味の動詞だったんだが、その「道理に照らせばく」に相当する」という意味から助動詞の働きをもつようになったんだ。

「^{まさ}」の字も似た意味を表す助動詞で、これは「適合」の意味から同じ働きをする。同様に動詞を目的語にとつて意味を添えるんだ。

●助動詞「当」「^{まさ}」



少^ニ壮^ニ真^ニ当^ニ努^ス力^一

▼少壮真に当に努力すべし。

▽若い時は真に努力するべきだ。

「少」が「若い」って意味なのは学習済みだぜ。君らな、ほんとに若い時は努力せなあかんよ。そんなの年とつたって一緒だつて？ そうさ、確かにその通りなんだが、そういうことは別に、若い時って、どどんいろんなことを吸収できる力をもってるんだ。柔軟性があるんだよ。今どどん力をつけて、伸びていかなきゃいかんってことだよ。

「当」は、当然・推量の二つの意味をもってるが、どちらかというと、当然の意味で用いられることが多いかな。

君^ニ自^リ故^ニ郷^一来^{タル}、応^ニ知^ル故郷ノ事^ヲ

▼君故郷より来たる、応に故郷の事を知るべし。

▽君はふるさとから来た、きつとふるさとのことを知っているだろう。

「応」も当然・推量の二義のある後だけど、圧倒的に推量の意味で用いられる頻度が高いね。「故郷のことを知ってることに適合する」という意味から、推量表すわけだな。

特に助動詞「当」は、頻繁に用いられるんで、再読文字としての読み方も含めて、ちゃんとマスターしとけよ。ただし、本文はこの意味では用いられてないんで、切り分けよろしく。

〔読解・鑑賞〕

・「枕^ツ石^ニ漱^ッ流^レ」

（石に枕し流れに口すすぐ）ってのは、なんか憧れるなあ。ほんとの枕で寝て、きれいな井戸水が何かで歯磨きするのが、普通の生活さ。その方が絶対快適だし、それが文明的な生活ってものだよ。でも、文明的な生活っていうのは、人々の中で生きなければならぬよな？ 人と人が交われれば、いろんな摩擦もあるし、また、人よりも秀でようという野心とか出世欲、人より豊かな生活がしたいという物質欲、金銭欲にとらわれがちになるじゃないか。それで嫌な思いをすることも、傷つくこともある。

文明社会というのは、そのまま世俗と場を同じにする生活だよ。そついう一切の関わりを断ち切りたい！ 生活は不便かもしれないけれども、誰ともトラブルを起こすこともない。自然を相手に自由に生きる。そんな生活してみたいと思っただけじゃないかい？ 孫子荊がどんな理由から隠棲したいと思っただけはわからないけど。まあ、彼の場合、その性格ゆえか、周囲とトラブルってたみたいだから、それも理由の一つかもしれない。

・さて、その孫子荊が隠棲したいと告げようとした相手が、王武子だ。名は済という。武子は字だよ。この王済という人物が、これまた嫌な奴だったらしい。好んで他人の悪口をいう性癖があったとか。嫌な

奴のそいつと仲がよかったのが、これまた傲慢で嫌な奴の孫子荊だったと… 類は友を呼ぶとはこのことかね。

誤^{リテ}曰^{ハク}、漱^ギ石^ニ枕^{セント}流^レ。

(書き下し文) 誤りて曰はく、「石に漱ぎ流れに枕せん。」と。

こいつは訳せるだろう。「『石に口すぎ流れに枕しよう』と言い間違った。」って意味だな。

〔文法〕

・「枕^ス」の用法は、前の「枕^ッ石^ニ 漱^ッ流^レ」のところで説明してもよかったんだけど、ややこしい文法事項があったからやめといたんだ。ここは簡単だから、きちんと説明しておこう。こんなことを言ったの覚えてるか？ 「漢文は構造の型の力で、**本来の品詞が違う品詞のように働くこともある**」って。「枕」ってのは、もちろん「まくら」という意味の名詞だよ。寝るとき、頭を載せるやつさ。今のフカフカの奴じゃなくて、木製や陶磁器も普通に用いられていた。何にせよ、枕は枕さ。ところが、この「枕」という名詞が目的語をとると、構造の型の力で、動詞のように働くんだ。

枕

(まくら … 名詞)

←

述語

目的語

枕^ス

石^ニ

(まくらす … 動詞のように働く)

品詞が構造の型により、違う品詞として働くことを「**品詞の活用**」と呼んでる。日本では語形変化を活用というのに対して、中国では品詞の働きが変わることを活用というんだね。だから、これは名詞の活用になる。名詞が活用して動詞になるといつてもいいかな。

〔読解・鑑賞〕

・ ははは…、これはさすがに言い間違いだね。石では口はすすげんし、流れに枕したらどうなっちゃいます？ ずぶ濡れだよ… 普通なら言い間違いに気づいて、顔真っ赤！ってとこだよな。ところが、孫子荊は、そうじゃなかったわけだ。さて、どうする！

・ 「漱石」は、いうまでもなく、「吾輩は猫である」とか「坊っちゃん」「こころ」なんかで有名な文豪夏目漱石の号だね。本名は夏目金之助だよ。友人正岡子規からこの「漱石」という号を譲り受けたんだが、もちろん孫子荊のエピソードに取材したものだよ。どんな意味がこめられているのか、次の時間の孫子荊の切り返しから想像してみようね。

今日の授業、最初なのに、ちょっと難しかったかな？ もし、よくわかんないところがあったら、中井に連絡よろしく。

ワークシートを埋めて、しっかり復習よろしく。次の授業もきちんと予習しとけよ。

じゃあな！

2年古典（漢文）『漱石枕流』書き下し文と口語訳

①書き下し文

孫子荊、年少き時、隠れんと欲す。王武子に語りて、当に石に枕し流れに漱がんとすべきに、誤りて曰はく、「石に漱ぎ流れに枕せんと。」と。王曰はく、「流れは枕すべく、石は漱ぐべけんや。」と。孫曰はく、「流れに枕する所以は、其の耳を洗はんと欲すればなり。石に漱ぐ所以は、其の齒を礪かんと欲すればなり。」と。

（中井訂正バージョン）

孫子荊、年少き時、隠れんと欲す。王武子に「当に石に枕し流れに漱がんとす」と語げんとし、誤りて曰はく、「石に漱ぎ流れに枕せんと。」と。王曰はく、「流れは枕すべく、石は漱ぐべけんや。」と。孫曰はく、「流れに枕する所以は、其の耳を洗はんと欲すればなり。石に漱ぐ所以は、其の齒を礪かんと欲すればなり。」と。

②口語訳

孫子荊が、年若い時、隠棲したいと思った。王武子に語って、当然「石に枕し流れで口すごう」といふべきなのに、「石で口すすぎ流れに枕しよう」と言い誤った。王（武子）が「流れは枕することができ、石は口すすぎことができるだろうか。（いや、できるはずがない。）」と言った。孫（子荊）は、「流れに枕するのは、自分の耳を洗おうと思うからである。石で口すすぎのは、自分の齒を磨ごうと思うからだ。」と言った。

（中井訂正バージョン）

孫子荊が、年若い時、隠棲したいと思った。王武子に「石に枕し流れで口すすぎごう」と言つと告げようとして、「石で口すすぎ流れに枕しよう」と言い誤った。王（武子）が「流れは枕することができ、石は口すすぎことができるだろうか。（いや、できるはずがない。）」と言った。孫（子荊）は、「流れに枕するのは、自分の耳を洗おうと思うからである。石で口すすぎのは、自分の齒を磨ごうと思うからだ。」と言った。

2年古典（漢文） 『漱石枕流』 1 ワークシート

二年 組 番

① 次の単語の読み方を辞書で調べて平仮名で書こう（現代仮名遣いでよい）

・年少^シ時（ ） ・欲^ス隠^{レント}（ ）

・流^{レハ}可^レ枕^ス（ ） ・所^コ以^ハ枕^{スル}流^{レニ}（ ）

② 書き下し文にしたがって、次の漢文に返り点と送り仮名をつけよう。

・流可枕、石可漱乎。（流れは枕すべく、石は漱ぐべけんや。）

・所以枕流、欲洗其耳。（流れに枕する所以は、其の耳を洗はんと欲すればなり。）

③ 次の漢文を訳してみよう。

・孫子荊、年少^キ時、欲^ス隠^{レント}。

・語^{セントシ}王武子^ニ当^ニ枕^シ石^ニ漱^{カント}流^{レニ}、誤^{リテ}曰^{ハク}、「漱^ギ石^ニ枕^{セント}流^{レニ}」。

④ 次の二重目的語の文に、返り点と送り仮名をつけ、間接目的語（誰に）と直接目的語（何を）にあたる部分を指摘しよう。

・秦昭王遺楚王書。（秦の昭王楚王に書を遺^{おく}る。）

・項梁教籍兵法。（項梁籍に兵法を教ふ。）

⑤ 孫子荊が王武子に告げようとした「枕^シ石^ニ漱^グ流^{レニ}」とは、どのような生活をするか、説明してみよう。

2年古典（漢文） 『漱石枕流』 1 ワークシート （解答例）

二年 組 番

① 次の単語の読み方を辞書で調べて平仮名で書こう（現代仮名遣いでよい）

・年少シヤウジキ時（わか（き））
 ・欲ス隠レント（ほっ（す））
 ・流レハ可レク枕ス（べ（く））
 ・所コ以ハ枕スル流レニ（ゆえん）

② 書き下し文にしたがって、次の漢文に返り点と送り仮名をつけよう。

・流レハ可レク枕ス石ハ可ケン漱グ乎。
 （流れは枕すべく、石は漱ぐべけんや。）
 ・所コ以ハ枕スル流レニ欲スレバ洗ハント其ノ耳ヲ。
 （流れに枕する所以は、其の耳を洗はんと欲すればなり。）

③ 次の漢文を訳してみよう。

・孫子荊、年少キ時、欲ス隠レント。
 「孫子荊が、年若い時、隠棲したいと思った。」

・語セントシ王武子ニ当ニ枕シ石ニ漱カント流レニ誤リテ曰ハク「漱ギ石ニ枕セント流レニ」

「王武子に「石に枕し流れで口をすすぐうと思う」と告げようとして、「石で口をすすぎ流れに枕しようと思う」と言い誤った。」

④ 次の二重目的語の文に、返り点と送り仮名をつけ、間接目的語（誰に）と直接目的語（何を）にあたる部分を指摘しよう。

・秦シ昭王遺ル楚王ニ書ヲ。
 （秦の昭王 楚王に書を遺る。）

・項梁教フ籍ニ兵法ヲ。
 （項梁 籍に兵法を教ふ。）

⑤ 孫子荊が王武子に告げようとした「枕シ石ニ漱グ流レニ」とは、どのような生活をするかどうか、説明してみよう。

「俗世間を離れて、自然とともに自由に生きる生活。」